

## まえがき

みなさん、占いて聞くと何を連想されますか。怪しい物、怖い物そんなイメージをお持ちの方が大半でしょう。世の中が不穏な空気が漂っているこの時代です。どうするといいいのか方向がわからなくなってきた時、占いに関わってみようかどうかと一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。

2018年は特に地震・豪雨・台風と天災の大きかった年でもありました。そんな時、一体何を信じたらいいいのかと悩まれる方も多いのではと思います。天災に人は敵いません。こればかりは自然を素直に受け止めるしかないのです。実際には占いには少し興味はあるけど、やはり不安が先に立たれるのではないのでしょうか。占いに来られる方は、悩みなり迷いなり何らかの不安や苦痛を抱え相談に来られます。慎重になるのは当然でしょう。裏を返せば、占いに無縁な方というのは、幸せいっぱいでも悩みなく楽しく毎日を過ごしている方でしょう。そのような方には占いはナンセンスなお遊びだという認識しか持たれていないと思います。

私自身、占いに頼る人間はただ弱い人で依頼心が強く自分の事が何もできない人。何かに頼りたいその一心で甘えている人がただやみくもに愚痴をこぼしに行く場所で時間とお金の無駄使いだという認識がありませんでした。

正直、鑑定料を支払って、良い事を言っていたら嬉しいですが、どなたでも、恐ろしい自分の命に関わるような予言を聞かされたらと思うと、お金を支払ってまでそんな不吉な予言を聞きたくはありません。普通の人なら、誰しも感じる事だと思います。後で本編の中で書きますが、あなたを不安がらせる占い師は大半が詐欺だとお考えになるのが賢明でしょう。

これほど市民権のない占いという存在は、世間的なお遊び程度の認識でありながら、占いコーナーが雑誌やメディアのどこかに今でも存在している事も周知の事実です。あなたも一度は目にしたことがあると思います。人は誰しも見えない部分、わからない部分をなんとか事前に知りたいたいそんな思いが潜在意識のどこかにあるからなのでしょう。

ここであなたに知ってほしいと思っている事は、占いや運命学という学問は立派に存在しているという事実です。天文学と密接な宇宙の法則の上に立った立派な机上で学べる天文学から導かれている学問である事をお伝えしたいのです。

考古学でも知られる「マヤ暦」や史跡や遺跡を検証すれば、天体観測に用いられたであろう痕跡も現在の発掘調査でも徐々に解明されてきています。

運命学は帝王学として時の権力者だけが学べた学問だったからです。日本では古い師、陰陽師が大切にされたのです。

宗教や占いなどは、大きな組織や団体になると国家を揺るがす大問題にも発展しかねません。それだけに、運命学は一子相伝、特に重要な部分である奥秘伝は、よほど信頼のおける人間的にも認められた弟子にのみ口頭で語り継がれてきた歴史がありました。口頭で伝えた事には勿論意味がありました。書面は全て抹殺できますが、人の脳裏に残つ

ている記憶までは消すことはできないからです。どんな団体でも組織として大きくなってくると、時の権力者に民族もろとも抹殺されるという権力闘争の歴史があつたからなのです。

占いは、特に人生の選択に迷つた時の可能性を引き出せる為のお手伝いやアドバイスをさせていただく所です。ご自身の指針を決めて行動の後押しをさせていただくものであるとお考えください。占いという運命学は一体何なのかの概要と、現場での実体験を通じて、占いの現場や実情を具体的にご紹介させていただきます。

運命学という学問は、ある程度の人生の大きな流れを予測し夢を形にする暗示と警告を知るための学問です。人は、1人だけでは生きていけない生き物です。いつ、怪我をしたり病気になつたりするのは神のみぞ知る事なのです。動けなくなつた時、誰かの助けが絶対に必要になるのです。当たり前などありません。何事にも感謝を持つて関わる事が一番の開運に繋がります。

未だに市民権のない「占い」を、少しでもご興味をもって歴史ある帝王学であつた学問を知る機会があつたと感じていただければ幸いです。

予定より出版が大幅に遅れてしまいました。ある意味で人生の節目に当たる選暦を迎える歳に書き上げる事になつたのも何かの意味があつたのだと感じています。占いに対する誤解や偏見を持たれないようにと願い、また、皆様の発展と開運を目指すきっかけに占いがお役に立つ事を願つて。

令和元年（己亥） 5月吉日  
運命学鑑定士 日宣 妙苑 拝